

カトリック

広島教区報

No. 123

カトリック
広島司教区

発行責任者
広報担当
服部大介神父

「点訳版」あります。
お問い合わせください。

広島市中区鞆町 4-42
広島司教区内
TEL (082) 221-6017

白浜司教メッセージ・じゃけえのう・教区の動き
教区の動き
シルベスタ新司教叙階式
地区情報・海峡からの風・地区センターだより
青少年・一粒会・ひと粒

一〜三面
三〜四面
五面
六〜七面
八面

「創造性をもって行動する勇氣」を

聖ヨセフに学ぶ

―コロナ禍と種々の困難を乗り越えて行くために―
広島教区長 アレキシオ 白浜 満 司教

主の降誕と初春のお喜びを申し上げます 神様の特別なご加護をお祈りいたします

昨年、新型コロナウイルス感染症のパンデミック（世界的大流行）という、これまでに体験したことがない大きな困難に直面して、心労の多い一年でした。しかし、より福音的な生き方や教会のあり方を目指していくために、新しい視野・気づきを与えていただいた一年でもありませんでした。昨年、神様からいただいた数々の恵みの陰には、皆様からの温かいお祈りやいろいろな形でのご支援があったことを、心より深く感謝いたします。今年も、皆様のご協力を、どうぞよろしくお願いいたします。



2020年11月28日に行われた叙階式の様子。左、白浜司教、右、シルベスタ新司教。詳細は 5面に記載。

「ヨセフ年」にあたって

教皇フランシスコは、一八七〇年に教皇ピオ九世（福者）により、聖ヨセフが「カトリック教会の保護者」と宣言されてから一五〇周年に当たることを記念して、二〇二〇年十二月八日（無原罪の聖マリアの祭日）〜二〇二一年十二月八日までの一年間を「ヨセフ年」とすることを、使徒的書簡『パトリス・コルデ』（父親の心で）をもって宣言されました。わたしたちは（正式な翻訳の公表を待つて）、教皇フランシスコの使徒的書簡『パトリス・コルデ』を読んで黙想する機会を持ち、教皇がこの書簡の中で強調しておられる聖ヨセフの姿に心に留めながら、わたしたちの模範にしていきたいと思えます。この「ヨセフ年」にあたって、すでに読まれた方もいるかもしれませんが、教皇ヨハネ・パウロ二世の使徒的勸告『救い主の守護者聖ヨセフ』（一九八九年公布）も、是非、一読をお勧めしたいと思います。

全世界と広島教区のために

全世界は、昨年から新型コロナウイルス感染症のパンデミックとい

じゃけえのう

「誠実」

二〇一六年十二月二十五日、私は洗礼を受けました。本校の生徒や教員が参列してくれ、一年を締めくくるのに、とても素晴らしいクリスマスとなりました。翌年九月十八日、サビエル記念聖堂で「教区の日」が行われ、オープニングでサビエル高校合唱部は演奏をしました。それを指揮した後、私は、救急車で病院に運ばれました。病名は「脳梗塞」。当初一週間退院という診断が、結局六ヶ月のリハビリが必要となり、三年を経過した現在、右手脚に麻痺が残っています。

入院して三日目、全く右側が動かなくなつた時、お見舞いに来られたSr.カルメンから「あしあと」という詩をいただきました。「あしあとがひとつだったとき、わたしはあなたを背負って歩いてきた」これは、その詩の最後に書かれていた言葉です。その後、リハビリ病院に転院して暫くたった頃から、「右手脚が動かなくなつた

今、世界中が、コロナウイルスに振り回されています。全国一斉休校の期間に、カミュの「ペスト」を読みました。ペストが蔓延し封鎖されたアルジェリアの都市の閉塞状況のなかでの、正義と連帯と反抗を描いた作品です。この作品の中に「生きるヒント」があるのではと思つたからです。その中に、医師の言葉としてこうあります。「ペストと戦うただ一つのやり方は、誠実さだ」困難に立ち向かうとき、わたしたちのとるべき行動を、こう教えてくれます。

多くのものを私たちが奪つている今回のコロナ。しかし、考え方を換えれば、ある意味これも、神様からの贈り物として、こうした考え方を教えてくれているものかもしれません。

（松原 秀樹 サビエル高等学校 校長・長府教会）

「じゃけえのう」とは広島弁で「だからね!」という意味。

う、未曾有の困難に遭遇し、それに伴う副次的な種々の弊害も重なり、人々の社会生活にも大きな支障をきたしています。全世界がこの危機的な状況を一日も早く乗り越えることができるよう、聖ヨセフの取り次ぎを願いたいと思います。そして、この「ヨセフ年」の間に、広島教区では、十一年ぶりとなる「教区代表者会議」が開催されます。この会議のためにも、わたしたちは、とくに「教会の保護者」聖ヨセフの取り次ぎを求めながら、更なる飛躍を目指して、その準備に励んでいきたいと思えます。

聖ヨセフの称号と模範

カトリック教会においては、神の母聖マリアに続いて、その夫であった聖ヨセフ



『ヨセフの夢』
フィリップ・ド・シャンパーニュ 作

が、諸聖人の中でも模範的な聖人と仰がれていることは、皆さんもご存じの通りです。福音書の中で示されている救いの歴史において、聖ヨセフが果たした使命、そして今も継続している役割は、歴代の諸教皇やカトリック教会のカテキズムが聖ヨセフに与えた、以下の称号にも要約されています。つまり、「カトリック教会の保護者」（教皇ピオ九世）、「労働者の守護者」（教皇ピオ十二世）、「救い主の守護者」（教皇ヨハネ・パウロ二世）、「よい臨終の擁護者」（『カトリック教会のカテキズム』一〇一四）などです。

福音書の中には、聖ヨセフが語った言葉はなく、その行いだけしか記述されていないためか、わたしたちにとっ

て、聖ヨセフは、沈黙の人、謙虚な人、質素な労働者、とくに困難などきの助け・導き手というイメージが強い人です。教皇フランシスコは、どちらかと言えば、これらの第二次的なイメージに覆われている、聖ヨセフの主要な使命、つまり、神の救いの計画における「マリアの夫」であり、イエスの養父（守護者）である点に目を向けさせています。そして、今回の使徒的書簡のタイトルにもなっている、その「父親の心」を、とくに「愛」、「優しさ」、「従順」、「受容」、「創造的な勇氣」、「労働」、「守ること（保護）」という七つの特徴に要約してくださっています。

この七つの特徴全体を、この記事の中に網羅することはできませんが、新型コロナウイルス感染症のパンデミックと、現在、準備が進められている「教区代表者会議」に関連して、とくに、わたしの心に響いてきた二つの箇所を紹介したいと思います。（なお、同書簡の正式な翻訳が出されていないため、引用文などは稚拙な私訳です。ご了承ください。）

出来事を受容

わたしたちは人生の中で、その意味が理解できない出来事に遭遇することがあります。昨年から続いているパンデミックは、その最たるものではないでしょうか。このように思いがけない困難に直面する時、わたしたちは動揺し失望してしまいがちですが、教皇フランシスコは、次のように教えています。「ヨセフは、起こっていることに意味を見出すため、自分の理屈にとらわれず、自分の目に不可解に思えても、それを受容し責任を引き受けて、自らの歴史（人生）と和解しました。もし、わたしたちが自らの歴史（人生）と和解しないなら、次の一步を踏み出すことはできません。なぜなら、わたしたちは、自らの期待と生じてくる失望に、いつまでも囚われてしまうことになるからです。ヨセフがわたしたちに示している霊的な生活は、説明する道ではなく、受容する道です。この受容と和解から、さらに大きく深い意味のある歴史を垣間見ることができるようになります。ヨブが、起こってくる悪のゆえに神に逆らうよう、その妻からそそのかされたときに答えた

あの言葉を心に響かせましよう。「わたしたちは、神から幸福をいただいたのだから、不幸もいまだこうではないか」（ヨブ2・10）。ヨセフは、受動的に自分を委ねた人ではなく、積極的に勇氣をもって行動した人です。受容とは、聖霊から来る恵みの力が、わたしたちの生活の中に現れることです。ただ主だけが、わたしたちの生活の中で、矛盾し予測しがたい期待外れの事柄を受容する力を、与えることができるのです。」

創造性をもって行動する勇氣

この受容という態度に関連して、教皇フランシスコは次のように教えています。「まことの内的な癒しの第一段階が、自分の歴史（人生）を受容することにあるとしても、つまり、自分の生活の中に自ら選ばなかった事柄がそこに含まれていても、自分の中に場所を設けるために、もう一つの重要な特徴を付け加える必要があります。それは、とくに困難に直面した時に、創造性をもって行動する勇氣です。……しばしば遭遇する困難は、考えもしなかった解決

区の日」であり、各々地区に当日の担当をお願いする予定。詳細については、今後、引き続き検討していく予定とのこと。

◆分科会テーマを次の五つとしたい
①福音宣教
②平和
③多文化共生
④協働
⑤養成

◆小教区の代議員(代表者会議に出席)候補予定者を選出頂きたい
続いて議題は、教区内の「ソーシャルメディアの利用に関する指針(案)」に関する説明があった。この指針(案)は、今後、顧問弁護士、専門家の意見により、更に修正する予定で、完成すれば教区民にも参考にして頂きたいとのこと。

◆代表者会議に向けて示される具体的提言に関する意見や素案をお寄せ頂きたい

◆小教区の代議員(代表者会議に出席)候補予定者を選出頂きたい
続いて議題は、教区内の「ソーシャルメディアの利用に関する指針(案)」に関する説明があった。この指針(案)は、今後、顧問弁護士、専門家の意見により、更に修正する予定で、完成すれば教区民にも参考にして頂きたいとのこと。

議題の最後は、二〇二〇年度からスタートした「社会へのチャレンジ」と二年ごとの三つのサブ・テーマ「いのち」「環境」「平和」に関して、白浜司教から「現在の状況で活動していくことは困難であるが、できることを行っていくていきたい」「三つのサブ・テーマは、重要なテーマであるため、百周年以降も、具体的な行動について代表者会議の提言の中に盛り込んでいきたい」とのご発言があった。
教区宣司評の終盤は、「平和の使徒推進本部社会司牧デスクから」「核兵器禁止条約と国家の安全保障に関するアンケート実施について」「新型コロナウイルス感染症の今後の対応について」のお知らせがあった。
最後に、服部神父(教区事務局長)から「今回の教区宣司評で任期(二年)は満了となる。各地区においては、代表者会議が開催されることを考慮して新しい評議員を選出して頂きたい。この度の評議員の皆さま、ご苦勞様でした。」とあった。
以上のご話が話し合われ、祈りと祝福のうちに三時間の教区宣司評を閉会した。
なお、次回二〇二一年度(第一回)教区宣司評は、六月十二日に開催予定。
本記事に関するご質問などは平和の使徒推進本部まで。

広島キリシタン殉教碑(広島市西区己斐)の移転計画の話が十数年ほど前に持ち上がり、小教区を始め修道会等からも募金を頂いておりました。当時の計画は残念ながら色々と問題があつて進めることができず、しばらくそのままになっておりました。

この度、隣の洋菓子屋、株式会社櫛さんとの話し合い等もあり、広島地区長の萩神父様が積極的に動いてくださり、移転計画が進んでいくことになりました。

殉教碑はやはり道路側から見るところが良いということ、広島キリシタン殉教祭が行われる二月十一日(祝)にいつも道路に集まって祈りをささげていきましたが、少なくともそのくらいの人数が入るくらいの場所を殉教碑前に設置するという方向で移転することになりました。

殉教碑前広場→
祈りの集いが安全に行われるように広場を整備
↓駐車場
隣の洋菓子屋、株式会社櫛と共用の駐車場



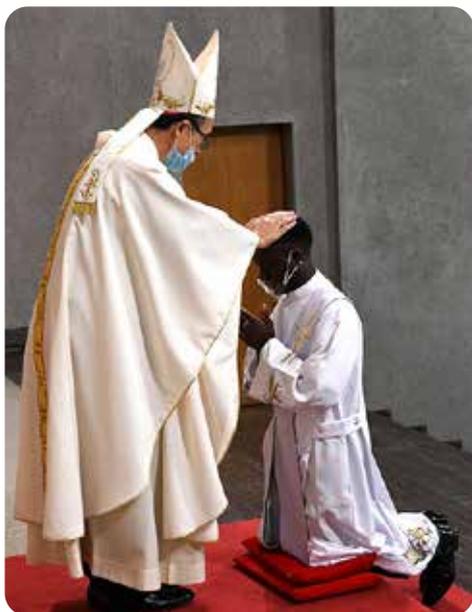
広島キリシタン殉教碑の移転報告

カトリック広島教区
教区事務局長 服部大介神父

とになりました。
殉教碑の背面側の土地も整備して、駐車場としてちゃんと使えるようになりました。普段は隣の櫛さんに駐車場として使ってもらうよう収益事業として契約をしていますが、殉教碑を訪れる方には使えるように配慮してもらっています。
このたびの移転によって、頂いておりました募金の収支報告もさせていただきます。残りのお金に関しては、この殉教碑の維持管理のために使っていくていきたいと考えています。

会計報告	
募金収入合計	6,593,908円
支出合計	5,191,390円
残 金	1,402,518円

シルベスタ新司祭 (淳心会) 誕生



シルベスタ新司祭

シルベスタ助祭（淳心会）が昨年十一月二十八日、白浜満司教の司式により、世界平和記念聖堂（カトリック幟町教会）で司祭叙階の恵みを受けた。

叙階式当日は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため、参列者の人数制限（百五十人）の中で行われた。また、参列できなかった方のために叙階式の様子が、インターネットのライブ配信（Youtube）が行われた。シルベスタ新司祭は淳心会員でコンゴ民主共和国出身、昨年十一月までは幟町教会で宣教司牧を行っていた。司祭叙階後は故郷のコンゴ民主共和国に一時帰国、今年三月に広島教区に戻る予定。

広島教区の信徒の皆さん、
主の平和！
シルベスタ新司祭

二〇二〇年十一月二十八日に司祭叙階されたシルベスタ神父と申します。コンゴ民主共和国に生まれ、淳心会に属しています。四年前、日本で宣教活動するための宣教師としての派遣を任命されました。最初の二年間は大阪で日本語を学び、卒業してから広島教区幟町教会にいます。

今、司祭になって私はなんと幸いな事でしょう！司祭になりたいという気持ちを持った時から今まで、すごく時間がかかりましたが、その間色々な体験をしましたが、あきらめかけた日々もありました。しかし今振り返って見ると、私の人生は神様から頂いた無限な恵みに満ちている人生でありま

す。なぜかという、神様が弱い人間である私に目留めてくださったからであります。

司祭叙階という秘跡とは大きな恵みなのです。だからこそ、司祭としてはそれを生かす事、あるいは皆に分かち合う事が私の望みです。これからもいつも神様の祝福が皆さんの上に豊かにありますようにお祈りを続けていきたいと思っております。そして私の目標を達成するために皆さんとの祈りとご協力を宜しくお願

いします。



叙階式参列者の様子 新型コロナウイルス感染拡大対策をとりながら150人が参加。

司祭叙階式

日時：3月20日（土・祝）13：00～

場所：世界平和記念聖堂 カトリック幟町教会
広島市中区幟町4-42 TEL 082-221-6017

受階者：使徒ヨハネ 朴根培 助祭

パウロ 三宅仁孝 助祭

司式：アレキシオ 白浜満 司教

訃報

東京大司教区 岡田武夫名誉大司教様 帰天
大分司教区 濱口末男司教様 帰天

2020年12月18日、岡田名誉大司教様が、咽頭食道がんのため東京医科歯科大学附属病院で帰天されました。享年79歳でした。また、濱口司教様は、12月28日、悪性黒色腫のため大分大学医学部付属病院で帰天されました。享年72歳でした。皆様、お祈りください。

地区便り

岡山鳥取地区

*第四十回世界連邦岡山県宗教者大会が開催

昨年十一月二十七日、第四十回世界連邦岡山県宗教者大会がカトリック岡山教会で開催されました。

大会テーマ『すべてのいのちを守るため』は教皇フランシスコが訪日の際に私たちに向けたメッセージでありこの言葉を参加した各宗教者が共有することとしました。

毎年三百名ほどの参加がありますが、今年は新型コロナ対策の為、参加者の人数制限が行われ約半数の参加にて行われました(参加団体八団体)。



大会の様子 岡山教会

式典は平和記念礼拝を白浜満司教様の司式、記念講演は「平和における宗教者の役割」という題目で前田万葉樞機卿様が行われました。

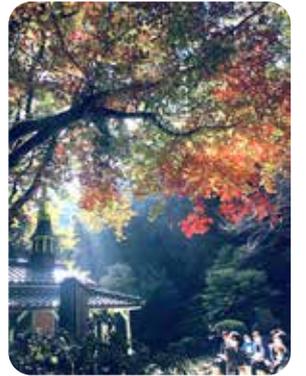
最後に、今年は特に新型コロナナウイルスが全世界の脅威となり、大切な「いのち」を奪いましたが、我々は希望を持ち、互いに励まし助け合い、祈りましょうという呼びかけがありました。

山口鳥根地区

*乙女峠秋の墓参巡礼

去る十一月三日、津和野乙女峠にて「乙女峠秋の墓参巡礼」が行われた。例年は、津和野教会聖堂でのミサ後に乙女峠まで登り、十字架の道行というスケジュール。しかし、昨年は新型コロナウィルス感染防止対策によりミサを乙女峠で行うなど例年とは異なる形での開催になった。当日は五十名ほどの参列者でミサの司式は大西神父、共同司式に山根神父・外川神父。ミサの説教で大西神父は「このコロナ禍にあっても神の恵みは、今日のこの日差しのようにいつも、柔らかく降り注いでいる。殉教者に倣って私たちもこの試練を乗り越えましょう。」と参列者を励まし

た。その後、十字架の道行を経て各自お弁当を食べ、澄み渡る秋晴れに恵まれ、皆それぞれに久しぶりの再会などもあり、良い時間を過ごすことが出来た。



秋の乙女峠

広島地区

*広島キリシタン殉教碑での祈りのつどい

二〇二〇年十一月二十九日午後二時から広島市西区己斐にある広島キリシタン殉教碑の前で、祈りのつどいが開催されました。

殉教碑は清心学園の生徒が学校からの帰路で、正面に見える方向に移設されました。また周りもアスファルトで整地されていました。

当日の参加者は白濱司教・荻神父・瀧井神父・関係者の合計十六名でした。

白濱司教による祝別の後、聖歌・祈りを捧げました。式の終了後、記念撮影・桜の記念植樹を行い散会し

海峽かゝる風 58

下関労働教育センターだより

「新しい風を受けて」

コロナ禍の中で、今までの活動が立ちゆかなくなりもし、海上に漂いながら待っている、新しい風がどこからか吹いてくるのを感じる。

「この関門エリア(北九州と下関という本州と九州の境界)の中で、野宿者や貧困家庭、外国人労働者、留学生たちを支援しているグループがあるけれど、その人たちが繋がり、情報を共有したり、市民たちに声を発したりする貧困ネットワークの一つの拠点に労働教育センターはなれないだろうか。」そのような呼びかけがある信の方が発してくださり、山口県のことでも食堂ネットワークのコーディネートや、技能実習生を支援しているグループの方々などに声をかけて、センターを通して何が出来るか知恵を出しあつてもう機会を持った。できることからかくはじめてみる。そうして十一月、労働教育センターを場に「子どもとみんな食堂」「ロクスひよりやま」がスタートした。共に善の志を持った人たちが集まる場をこめてラテン語のロクス(場)

と名づけた。子どもだけではなく、様々な世代の方、国籍の方が集まる場になったらよいという希望を持って「みんな食堂」としたのだが、第一回目は、地域の高齢者の方々やベトナムの技能実習生たちも来てくれ、希望の形が少しずつ現実となっていく兆しを感じる事ができた。下関市大の学生もボランティアとして来てくれた。労働教育センターの立つ日和山(ひよりやま)の居住者は高齢者率が高く、その方々が集まれる場を、と一年以上前からスタッフが高齢者食堂ひよりやまカフェをしてくれてきたことが何よりもありがたい下地となった。

貧困ネットワークの足掛かりとして立ち上げた子ども食堂を契機として、私が今まで関わりをもたなかった潮流にも乗ることができた。二〇二〇年が終わろうとする日にこの寄稿文を書いていく。どんな時代に入っていくのだろうか。苦難や、涙を通してながらも、聖霊の風は、新しさ(ギリシャ語の kamos: 全く別なもの、予期していなかったもの、古いものを凌駕したもの)へと私たちを運んでくれると信じて漕ぎ出した。

(労働教育センター) 所長 中井 淳 神父

ました。

この殉教碑は一九八四年に道路沿いに建立され、毎年二月十一日の殉教祈年祭では信徒が道路いっぱいとなり、一般の人の通行の妨げとなっていました。

この度の殉教碑の移設により、安全に祈りを捧げることができるようになりました。皆様もこの地を訪れて祈りを捧げてください。



集会ができるように整備された殉教碑広場

伯雲協働体

平和祈願ミサ〜永井隆博士をしのいで

毎年十一月二十三日の勤労感謝の日に、伯雲協働体(松江・出雲・米子)は三刀屋で永井隆博士を顕彰して『平和祈願ミサ〜永井隆博士をしのいで』を開催してき



米子教会

ました。しかし昨年は新型コロナウイルス禍のために開催することが叶わなくなりました。毎年開催していたこの活動を昨年は中止するにはしびず、各教会で十一月二十三日の日曜日のミサで開催することになりました。

ミサ中の各教会から、①戦争犠牲者及び被爆者のために ②全世界の平和のために ③雲南市の方々のために ④ベトナム共同体・フィリピン共同体がそれぞれ考えた共同祈願を祈りました。

ミサ後、米子ではスライドを見ながら「永井隆博士の経歴を紹介」「長崎で被爆された方の本」「永井博士の娘茅乃さんの文章」の朗読を聞き、平和を求める心を培いました。来年は三刀屋での開催を希望しながら。

地区センターだより 岡山鳥取地区センター

岡山鳥取地区センターは、岡山教会の敷地内カトリックセンター二階の一室にあります。当初、一九九四年六月に岡山教会旧聖堂北側のアモンテカント音楽教室の建物二階に地区長一名、事務員一名で開設されました。

新聖堂建設時(二〇〇一年)の建物除却に伴い、旧信徒館二階に一時移動し、カトリックセンター完成(二〇〇四年)時に、現在の場所になりました。

岡山鳥取地区センターもほかの地区センター同様、広島教区の地区出先機関です。仕事内容の基本は、以下となっています。

- ① 教区(本部事務局、平和の使徒推進本部、青少年情報センター等)と小教区、修道医院、教育機関等を結ぶ情報伝達のパイプ役として教区から降りてくる公的な情報や配布物は地区センターを通して地区内各部署へ配信、配送されていきます。
- ② 教区以外の外部団体(中央協議会)等との窓口
- ③ 司祭団の活動支援

- ・ 年十一回ある地区司祭評議会の準備・同行・レジュメ & 議事録作成等。当地区の

司祭評議会では、一年をかけて地区内の十一の小教区をまわります。

- ・ 全国教誨師連盟大会の会場手配・申し込み名簿作成等
- ・ 三姉妹教区委員会の活動補助

- ④ 地区内各活動グループの情報伝達における支援
- ⑤ 地区会計処理
- ⑥ 地区財務委員会(会議準備等)と地区宣教司牧評議会会議サポート
- ⑦ 地区広報室として

岡山鳥取地区では、情報を広くみなさまにお伝えできるように広報室が設置され、センター職員一名と信者一名が地区長直轄のもと、地区宣教司牧評議会事務局長とも連携をとりながら動いています。これまでHP教室開催などで支援してきました。

地区センター職員は一名ですが、みなさんの温かい笑顔に支えられてきました。ひとりでは、一人分のこともできませんが、二人、三人いれば、多くのことが出来ることを学びました。



桃太郎は、二〇〇八年に生まれた岡山鳥取地区のマスコットキャラクターです。岡山県の桃太郎と鳥取県の因幡の白兔がひとつになっで動いていけるようにという願いを込めてデザインされました。これからは十一の小教区がよい関係を築き、協力し、ひとつの地区として動いていけるようサポートしていきたいと思っています。

岡山鳥取地区広報室のホームページは、カトリック広島司教区のサイトから入れます。ホームページアドレス..カトリック岡山鳥取地区広報室 <http://treeingarden.jindo.com> みなさん、ホームページに遊びに来てください♪

青少年の活動

JYDオンライン 青年の集い

十月一八日に行われた、Japan Youth Day「第六回オンライン青年の集い」にパネラーの一人として出演いたしました。青年とはとどご縁のなくなった私になぜ？ とは思いましたが、コロナ禍の

中で考えたこと、そこから青年に分かち合って問いかけてみたいことを話せばよいということでしたので、お話ししました。

私はコロナ禍の間もほぼ普段通りに仕事をしていました。しかし、これまでと違う体験を二つしているなと思いましたが、その二つについて話しました。一つは、教会に来られなくなった信徒の方に、つながりを

保ち続けることができる別の形を提供するための方法を考える機会を与えられたということでした。もう一つは、様々なイベントが延期、あるいは中止になったことで時間の隙間ができ、自分自身について振り返る時間を与えられたということでした。



第六回オンライン青年の集いに参加した青年たちと。

放蕩娘の帰還



援助修道会

シスター 橋本晶子

「この『娘』は、死んでいたのに生き返り、いなくなっていたのに見つ

着いた、いつくしみに満ちた家でした。

広島教区の皆さま、終生

誓願のために沢山のお祈りや励ましをありがとうございます。放蕩娘は無事に帰還することができました。あの橋本が！？と驚きの方もおられると思いますが、私もそう思っている一人です。放蕩娘の帰還への道のりは長く「ごめんさい」を言うまでに随分時間がかかりました。しかしその道

この歩みを温かいまなざしで支えてくださった皆さまに、今もなお包まれ力づけられている恵みを感じています。一方で現代の修道生活も大きな転換期を迎えています。修道院が閉鎖され人数も減少していく中、形態は変化しているようにも見えます。しかし変わらない修道生活の召命とミツ

シヨンをより深く見つめ、神さまのみ旨に応えていくことが求められていると感じています。これからも放蕩娘は皆さまをハラハラさせるかもしれません、もう帰る場所を見失うことはありません！皆さまと共に、神さまの夢と響き合う生活が出来ることに心から感謝しています。

終生誓願 二〇二〇年十二月五日
援助修道会 市ヶ谷本部修道院（東京都新宿区）にて



〈107〉



（援助修道会
シスター 古屋敷一葉）

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない中、新しい年が始まりました。ミサへの配慮や教会行事等の自粛もしばらく続きそうです。

教区の二人の助祭の司祭叙階が決まりました。叙階式に多くの皆さんに来ていただくことができるかどうか分かりませんが、新司祭とさらなる召命のためにもどうぞお祈りください。

（にん）